



千代田日記

～ちよだにっき～

今月のごあいさつ

職場の環境を整備致します。

基本

仕事をやりやすく、環境を整えて備える。全員で朝計画を立て30分行う。

整理

いらないモノを捨てる。

整頓

物・情報・考え方を整える。

清潔

徹底的にピカピカにする。

礼儀

明るく元気に目線を合わせて挨拶する。

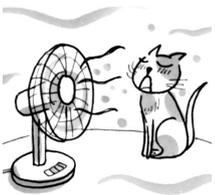
規律

集合時間を守り、整頓、清潔を守り決めたことを実行する。

チェック

点検シートにて月1回行う。
人事評価に連動する。

環境整備を通して物的な「場を浄める。」さらには「礼を正す。」人的な環境整備につながる。日々の清掃を繰り返すことで、働きやすい環境にする習慣そのものを高度化して事業の土台を作ってゆきま



ご存知
ですか？



今回から趣向を変えて音楽のお話をします。さて、何から始めますか・・・と考えるに音楽の一つの醍醐味に即興演奏が有ります。

17世紀からバッハまでのバロック時代は演奏者にある程度の自由があり、その後はオペラのリアなどにもアドリブの自由があります。もともと、自由にも決まりがあり、時代考証が必要です。

アドリブと言えはやはりジャズでしょうか。ご存知かと思いますが、日本が世界に誇る上原ひろみ氏の演奏がおススメ。夏の夜を楽しくしてくれること請け合いです。



落語ブームについて

算し足の暮らしの

近年、二〇代〜四〇代の人

たち、特に若い女性の間で「落語ブーム」が到来しているようです。落語の話には誰かを傷つけるような類のものはなく、聞けば聞くほど人間関係が学べると思われています。ただ単におかしく面白

い芸能というだけでなく、癒やしや人の温かさも運んでくれるものですね。

ただし、落語を心から面白いと感じるかどうかは、演じる落語家によるとも言われます。有名な落語家柳谷花緑も「落語を見てつまらないと思ったらそれはその落語家がつまらないのであって、落語がつまらないのではない」と語っています。

はじめて落語を聞くなら「寄席」や「落語会」に行ってみるのがオススメです。寄席では落語家以外の人も出演し、漫才や手

品なども行われます。入場料二五〇〇〜三〇〇〇円程度で、何人もの落語家や芸人さんの芸が生で見られます。現在の落語ブームによって、地方でも寄席や落語会が増え、昔から落語が好きだった地方のファンからの喜びの声もあがっているようです。



もちろん、生でなくとも落語の面白さを堪能することはできます。テレビ番組で見ることができず、CDやDVDも出ています。飛行機内のオーディオ・プログラムで落語をやっていることもあります。落語に少しでも興味がある方は、まずは気軽に耳を傾けてみるとよいかも思われますね。

ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテは、ドイツを代表する文豪であり、小説『若きヴェルテルの悩み』、詩劇『ファウスト』などで有名です。しかし、実は他にも、自然科学者、政治家、法律家など様々な顔を持っていました。ゲーテ本人は、亡くなる前年に「私は詩人としてかなり知られている。けれども私が、いろいろな自然現象を理解しようと熱心に努力し、真剣に追求しようとしていることはそれほど知られていない」と、自身で書き残しています。その言葉どおり、彼は科学者としては高い評価を得られませんでした。それは、彼が実験でわかるデータより、人間が受

急がずに、だが休まずに。

ゲーテ

ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテは、ドイツを代表する文豪であり、小説『若きヴェルテルの悩み』、詩劇『ファウスト』などで有名です。しかし、実は他にも、自然科学者、政治家、法律家など様々な顔を持っていました。ゲーテ本人は、亡くなる前年に「私は詩人としてかなり知られている。けれども私が、いろいろな自然現象を理解しようと熱心に努力し、真剣に追求しようとしていることはそれほど知られていない」と、自身で書き残しています。その言葉どおり、彼は科学者としては高い評価を得られませんでした。それは、彼が実験でわかるデータより、人間が受

け取る「感覚」にこだわりすぎたためとも言われています。彼は忙しい日々を送りながら、人の見ていないところでも研究や実験をたくさん重ねていたのでしよう。そして、華々しい成果のために焦ったり急いだりするよりも、まずは「地道な努力を貫くことこそが大切」と感じることもあったのでしよう。もしかするとそれは、作家としてだけでなく、科学者として地道に生きている時間を持っていたからこそ、深く実感できたことかもしれないですね。

じさひとひみごな

ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテは、ドイツを代表する文豪であり、小説『若きヴェルテルの悩み』、詩劇『ファウスト』などで有名です。しかし、実は他にも、自然科学者、政治家、法律家など様々な顔を持っていました。ゲーテ本人は、亡くなる前年に「私は詩人としてかなり知られている。けれども私が、いろいろな自然現象を理解しようと熱心に努力し、真剣に追求しようとしていることはそれほど知られていない」と、自身で書き残しています。その言葉どおり、彼は科学者としては高い評価を得られませんでした。それは、彼が実験でわかるデータより、人間が受





「働く」は「傍(はた)を楽(たの)む」

「働く」の語源は「傍(はた)の人を
楽(たの)む」ということ「……という説
があります。」

自分のためではなく、自分に身近
な人を楽にするために働く。

そういった考えで仕事や家事な
どにのぞむと、漠然と携わっている
仕事にやりがいを感じられ、「なぜ
働くのか?」という人生の命題のよ
うな問いにも、答えの糸口が見いだ
せる気がします。

大変な仕事と向き合っている時、
それが自分のためだけの苦勞だと、
耐えられないと感じた瞬間、投げ出
したので逃げ出したりますることがあ

るかもしれませんが。けれど、自分以
外の人のためと考えると、いつもよ
り粘り強く踏ん張ることができ、不
思議と我慢でできることが増えるも
のなのです。

この「働く」は、「お給料をいただ
く会社勤め」だけではありません。
例えば、女性の家事や子育てもま
た、かけがえのない尊い労働です。

いかなる職業であれ、立場であ
れ、自分の姿を通して人々に喜びを
運びたい・社会の役に立ちたいと言
う真心は、とても美しいものです。

もちろん、自分の夢や目的のために
頑張る、物質的に豊かな生活を送り
たいと願いながら働いている方も
いて当然ですし、それもまた、働く
ということの大切なモチベーショ
ンの一つです。

けれど、独り善がりな感覚で成功
を追求するあまり、人を蹴落として、
「人の不幸の上に自分の幸福を築

いたって平気だ」と言っただけ主義な
考え方になってしまふなら、それは
とても卑しく、貧しい心根の人だと
言わざるを得ません。

どんなに世間体の良い立派そう
な仕事に就いても、いずれは後悔や
反省にさいなまれたり、孤独で寂し
い気持ちをひきずったりすること
になるかもしれません。

何かで人の役に立てるといっ
び、自分を必要としてくれる場所が
あることの喜び。それを実感し、時
には感謝しながら生きる日々は、充
実した素晴らしいものとなるので
はないでしょうか。

こういった感覚を自分のものと
するためには、仕事をはじめ様々な
社会活動の舞台で、自分は何に貢献
し、どう成長しようとしているのか
を、常に意識しながら振る舞って
みることが大切です。

それが明確であるほど迷いがな

く、時には勢いよく一歩を踏み出す
ことができ、リズムがついてくるの
かもしれません。

リズムに乗れば、楽しみを見出し
たり、自分なりの工夫が生まれたり
するでしょう。精神面の充実や日常
生活の好調は、健康にも良い影響を
与えるに違いありません。

太陽は毎日、黙々とその軌道を回
り、休むことなく天地を照らしま
す。人間が働くことで自分も他人も
輝かせ充実の日々を送ることも、同
じです。地味で単調のようでも、か
けがえのない偉大な営みなのです。



心得の教科書

夏の汗の臭いをケアしよう

冷房が完備されている建物にはたくさんありますが、汗をかかずに過ごせないと季節ですね。そして、汗をかくと気になるのがその臭い。

「汗臭い」と言っても、汗そのものには臭いはなく、皮膚の表面の「皮膚常在菌」と呼ばれる菌が臭いの原因です。皮膚を外敵から守る働きをしている皮膚常在菌は、通常は数が少ないため、菌の働きによって発せられる臭いも微小です。しかし、汗をかくことで増殖・活性化し、臭いが強くなります。これが、「汗臭い」のもじりなのです。

ですから、汗をかいたら菌が増殖する前にしっかりとふき取ることが大切。乾いた状態のタオル・ハンカチなどより、濡れたもの（おしぼり



など)でふき取るようにしましょう。市販の制汗剤や消臭剤を利用するとともに、最近見かけるようになった、汗の臭気成分を90%以上カットする下着を併せて活用してみるといいでしょう。

さらに、体の内からのケアも大切です。菌の栄養分は動物性たんぱく質や脂肪などですから、肉より野菜中心の食事をした方がベター。酵素飲料を使ったデトックスなども効果が期待できます。

()に入る助詞【じょし】はどれ？

第1問 「色々考えたけど、これ()良い方法は思いつかなかった。」

- ① しか ② まで ③ は ④ など

第2問 「いつも試合に負けているけど、今日()はあのチームに勝つぞ！」

- ① とか ② こそ ③ やら ④ も

第1問 正解は①

「しか」は限定を表す助詞です。
「思いついた中で良い方法はこれだけ」という意味になります。

第2問 正解は②

「こそ」は強調を表す助詞です。
「いつもとちがって、今日は絶対に勝つ」という意味になります。